

記者発表(資料配布)				
月/日(曜日)	担当課	電話	発表者	その他配布先
6/24 (金)	兵庫県立大学 地域ケア開発研究所	078-925-9607	地域ケア開発研究所 所長 増野 園恵 (課長 山本 陽子)	県教委記者クラブ 東播磨県民局

## G7神戸保健大臣会合開催前フォーラム

### 「2016災害看護フォーラム」の開催について

地域ケア開発研究所は、我が国で初めての看護学に関する実践研究拠点として、人々のいのちと暮らしをサポートすることを目的に平成16年に開所して以来、「WHO災害と健康危機管理に関する看護協力センター」として世界保健機構（WHO）の認証を受けるなどしながら、研究、開発、実践を展開しています。

さらに活動を充実させるため、「G7神戸保健大臣会合」の開催（9月11、12日）を契機に、当フォーラムを開催いたします。また、本年より、「WHO神戸センター」と連携協力して研究を展開する予定にしており、そのキックオフも兼ねています。

阪神・淡路大震災以降の災害看護の活動経験や、熊本地震などの災害時の実践や研究活動を振り返り、人々のいのちと暮らしを守り支える看護について、各専門分野から講師を招くとともに学生による報告をまじえて、今後の具体的な方略等について検討いたしますので、災害看護に関心のある方、災害看護を担当される教員、学生をはじめ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

#### 記

1 テーマ：人々のいのちと暮らしを守り支える看護～阪神・淡路大震災から熊本地震へ～

2 プログラム：第1部 過去の経験から現在・未来へ（シンポジウム）  
第2部 熊本地震における災害看護活動（学生による報告）

3 日時：平成28年7月24日（日）13:30～16:00

4 会場：公立大学法人兵庫県立大学 地域ケア開発研究所 3階演習室  
（明石市北王子町13-71 兵庫県立大学明石看護キャンパス内）

5 募集人員：200名（先着順）

6 参加料：無料

7 申込方法、連絡先

専用サイト(<http://goo.gl/forms/0sksfpPjeSFkX3S22>)またはQRコード(別添チラシ)からお申し込みください。(申込期限 平成28年7月20日(水))

サイトにアクセスできない場合や、複数名でお申し込みの場合は、FAXまたはE-mailで、「参加者全員のお名前(ふりがな)、所属、職業、連絡先(E-mailなど)」をご記入のうえご連絡ください。

《連絡先》兵庫県立大学 地域ケア開発研究所 災害看護フォーラム担当  
FAX：078-925-9670、E-mail：[careken@cnas.u-hyogo.ac.jp](mailto:careken@cnas.u-hyogo.ac.jp)

8 主催：兵庫県立大学 地域ケア開発研究所  
共催：WHO神戸センター、G7神戸保健大臣会合推進協議会



# 人々のいのちと暮らしを守り支える看護 ～阪神淡路大震災から熊本地震へ～

毎年地球上のどこかで災害が発生し、多くの人々のいのちと暮らしが脅かされています。災害時の健康危機管理は、地球規模の大きな課題と言えます。2015年3月に国連防災世界会議において採択された仙台防災枠組みでは、「人命・暮らし・健康」や「より良い復興」が謳われ、それらの目的達成に向けて4つの優先行動が掲げられ。また、WHOにおいては、基本的な健康サービスを人々がいかなる時にも受けられるようにすること（Universal Health Coverage : UHC）が重視され、平時にも災害時にも、基本的な健康サービスが提供されるための方略が求められています。

日本では、阪神淡路大震災の経験を契機に、災害時の看護の役割が見直されてきました。災害発生直後の医療救護活動のみならず、中長期に渡り被災者に寄り添いながら生活の再構築を共に考え、支えていくことが看護の重要な役割であることが認識されるようになってきています。2016年4月に発生した熊本地震においても、看護職は避難所や地域コミュニティに入り込み、被災者に寄り添いながら人々の健康と暮らしを守り支える活動を行っています。その活動の多くには、阪神淡路大震災以降の度重なる災害時に行ってきた看護活動の経験が活かされています。

そこで本シンポジウムでは、阪神淡路大震災から熊本地震までの実践・研究活動を振り返り災害時に人々のいのちと暮らしを守り支えるために看護がどのように人々とともに活動し、何を達成してきたかを確認し、熊本地震からの復興に向けた、さらには仙台防災枠組みの目標達成・UHCの課題解決に向けた今後の具体的方略について検討したいと思います。

参加  
無料

定員  
200名

## 日時

2016年 **7月24日** (日)  
**13:30～16:00**  
受付開始：13:00

## プログラム

- あいさつ
- シンポジウム
  - 第1部— 過去の経験から現在・未来へ
    - 阪神淡路大震災から学び今に活かす看護活動  
大野 かおり 兵庫県立大学看護学部 教授
    - 被災地支援・看護職への期待  
頼政 良太 被災地NGO協働センター 代表
    - 職能団体における災害支援活動  
中野 則子 公益社団法人兵庫県看護協会 会長
    - 学術的発展と学会における活動への展開  
山本 あい子 日本災害看護学会 理事長
    - 兵庫県立大学地域ケア開発研究所 教授
  - 第2部— 熊本地震における災害看護活動  
DNGL学生からの報告

## 場所

兵庫県立大学  
地域ケア開発研究所 3階  
(明石市北王子町13-71)

【申込】7月20日迄に専用サイト (<http://goo.gl/forms/OsksfpPjeSFKX3S22> もしくは下記のQRコード) からお申し込みください。サイトにアクセスできない方や複数名でお申し込みの方は、参加者氏名(全員)、ご所属、職業、連絡先をFAXまたはEmailでお知らせください。

【お問い合わせ】兵庫県立大学地域ケア開発研究所 災害看護フォーラム担当  
FAXまたはEmailにてお問い合わせください。

FAX : 078-925-9670 Email : careken@cnas.u-hyogo.ac.jp

【主催】兵庫県立大学地域ケア開発研究所

【共催】WHO神戸センター・G7神戸保健大臣会合推進協議会

